

5 年 1 組国語科学習指導案

日 時；平成 24 年 9 月 27 日

2 時間目

場 所；5 年 1 組教室

1 単元名 自分の考えをまとめて、討論をしよう

2 教材名 豊かな言葉の使い手になるためには

3 指導の立場

(1) 教材観

本単元は、言葉の豊かさについて考えることを中心とし、自分の考えをまとめて仲間と討論をするものである。

言葉が「豊かである」ということは、何がどうであることをいうのか、まず自分自身の考えを明らかにしなければならない。そして、理想とする人物像をもち、インターネットや図書、相手へのインタビューなどでさらに詳しく調べて、どうやって豊かな言葉を身につけていくのかを見つけていく。調べて分かったことや、それをもとに自分自身が実践できることを考え、構成や表現の工夫をしながら文章に書きまとめる。その後、まとめたことをもとにして「豊かな言葉の使い手になるためにはどうすればよいか」という話題でグループ討論を行い、考えを深めていく。

上記のような内容で、本単元は第 4 次までの学習を積み重ねていくため、単元の導入から指導過程をしっかりとふまえ、子どもたち自身に見通しをもたせなければならない。また、この単元はインターネットや図書の利用の仕方や討論の進め方など、学び方を学ぶ単元でもあると考える。そのため、子どもたちの学習が自然に流れるように、それぞれの学習過程で何を重点としていくかを明確にして指導を進めたい。さらに、学んだことを以後の日常生活に生かせるようにしたい。

(2) 本単元のねらいにかかわる児童の実態

「言葉が豊かである」ということの中に、「相手の気持ちを思いやって話す」「相手に聞きやすい声の大きさで話す」「分かりやすく順序良く話す」などがあげられると思う。そのような話し方について、日常の委員会活動や授業で、多くの児童はよく意識して話をすることができる。この単元であらためて「豊かな言葉」について児童自身にじっくりと考えさせ、何が実践できるか具体的に分からせる必要がある。

「豊かな言葉の使い手になるために」どうすればよいのか、調べたことなどから文章でまとめる際、内容の構成を工夫しなければならない。

討論の進め方については、今まで学級会指導を行ってきたが、指導回数が不足で形式をつかむのがやっとという状態であり、話し合い活動がしっかりできるとは言えない。また、1 学期に「聞くことについて考えよう」という単元で聞くことについて学んだが、話題に対する仲間の意見を自分や他の仲間の意見と比べながら聞き、違いに気付くことが十分にできていない。そのため、討論については、司会の進め方など詳細を丁寧に教えなければできないだろう。

(3) 指導観

【1】言語活動の充実を図った単元指導計画のあり方

- ねらいを明確にした単元指導計画

本単元で指導する言語活動については、「書くこと」の言語活動例イ、「話すこと・聞くこと」の言語活動例イが考えられる。

「書くこと」の言語活動例イ

自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。

「話すこと・聞くこと」の言語活動例イ

調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。

単元指導時間の中で、それぞれの過程の指導のねらいにあわせて言語活動の指導を行っていく必要がある。最終的には討論をして自分の考えを深めることがねらいとなるので、前段階の「書くこと」についても方向を明確にして書くようにさせる。

【2】学び合いを通して、読みや表現を深める授業のあり方

- 願いや見通しをもつ場、交流して学び合う場、学習を振り返る場の設定及び工夫

第1次で学習の見通しをもたせる際、概要をとらえたのちに個人の課題設定となる。

課題は「豊かな言葉」に関わる自分自身の経験に基づいて設定するが、その上で調べたりインタビューしたりして課題をさらに明確にすることが必要である。思いやりがある児童の実態から、個人課題をしっかりとてらると思うが、さらにグループでの交流によって次の過程に入る前に自分の考えを確かめる機会をもつようにする。仲間の考えを聞いて、自分の考えを深めることができるような交流の場を設けるようにする。また、交流するために、事前に各自の考えをまとめておく必要があるので、集中して考えることができるという面でも意義がある。

交流は、「豊かな言葉」とはどんな言葉だと思うか、「豊かな言葉の使い手」とはどんな人だと思うか、「豊かな言葉の使い手」が気をつけていることは何か、の3点を交流する。それぞれ、導入時、第1次の調べ学習に入る前、第2次の書き出す前という、指導過程でポイントとなる部分である。

【3】協同的に学び合う学習集団の育成

- 学び合いを進める話し合い指導のステップや手立ての明確化

第3次で討論の仕方を教材文や音声資料を使って詳しく指導するが、事前に2学期の学級の課題、運動会の願いや取り組み方などについて、短い時間でも学級会を繰り返し行い、日常的に言葉や話し合い活動への意識を高めておく。また、討論の目的を明確にし、ひとりひとりが話題について確かな意見をもって、討論に参加できるよう、事前の準備ができるように個人指導を徹底して行う。

4 単元指導目標

話題を決めて、収集した知識や情報を関連づけ、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。

- 自分の話題について調べ、意見を記述した文章を書くことができる。

- ・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて感心をもつことができる。

5 単元指導計画

次	時	ねらい	主な学習活動	指導・援助
第1次	1	学習の流れを確認し、学習の見通しをもつことができる。	1. 単元名などから学習の見通しをもつ。 「豊かな言葉の使い手になるためには」について考え、学習課題を設定しよう。 2. 「豊かな言葉の使い方とはどういうことか、考えを出し合う。 3. 単元の学習課題を設定する。	・身近な出来事や経験とつないで、考えを出し合わせる。 ・話の内容だけでなく、声の質、声量など、幅広い観点に気付かせる。 【関】単元の学習の見通しをもとうとしている。
	2	「豊かな言葉の使い手」について、マップを用いて考えを整理し、自分の課題を決めることができる。	1. 学習課題を確認する。 「豊かな言葉の使い手」とはどんな人が考えよう。 2. 今までの経験から、考えたことをマップに書く。 3. 自分の考えを出し合う。 4. 詳しく調べたいと思うことをはっきりさせる。	・詳しく知りたいことと、それに当てはまる人物を結びつけ、自分の課題を決めさせる。 ・課題を交流して、自分の課題を解決する手段をイメージする。 【書】マップを用い、どんな言葉の使い手をめざしたいのか考え、自分の課題をノートに書いている。
	3	詳しく知りたいと思うことについて図書やインターネットなどで調べ、メモをすることができる。	1. 学習課題を確認する。 「豊かな言葉の使い手」について詳しく調べよう。 2. インターネットや図書室の本で調べ、メモをとる。	・インターネットで調べる時に、情報の末端部分にこだわらず、サイトの全体像を確かめさせる。 ・図書の本を紹介できるように、事前に確かめておく。 【書】インターネットや本で調べたことをノートに書いている。
	4	調べて分ったことを自分の言葉で発表することができる。	1. 学習課題を確認する。 「豊かな言葉の使い手」について調べたことを発表しよう。 2. 「豊かな言葉の使い手」は、どんなことに気をつけて話しているか、分かったことを出し合う。	・本やインターネットで調べて気付いたことを、話すようにさせる。 【関】インターネットや本で調べたことをノートに書き、進んで意見を発表している。
第2次	5	調べたことから「豊かな言葉の使い手」が気をつけていることを書き出すことができる。	1. 学習課題を確認する。 「豊かな言葉の使い手」が、気をつけていることは何か、書き出そう。 2. ワークシートを利用して書き出し、豊かさを生み出すものについての考えをまとめる。	・本やインターネットで調べたことから、共通する部分を見つけ、豊かな言葉を生み出しているものを明らかにさせる。 【書】調べたことを整理し、豊かさを生み出すものを考えて書き出す。
	6	「豊かな言葉の使い手」になるために、自分にできることを見つけ、書き出すことができる。	1. 学習課題を確認する。 「豊かな言葉の使い手」になるために、自分なりにできることを考えよう。 2. ワークシートを利用して、前時まとめた豊かさを生み出すものを参照し、自分にできることを考えて書き出す。	・本やインターネットで調べたことをもとにして、自分なりにできることを、今までの経験から考えるようにさせる。 【書】調べたことを参考にし、自分なりにできることを考えて書いている。
	7	調べて分ったこと、自分にできることについて段落構成を工夫し、文書を書く準備をすることができる。	1. 学習課題を確認する。 段落構成を考え、自分ができることを文章に書きまとめよう。 2. 教材文を読んで、教材文の段落構成に気付く。 3. 考えをまとめる時、文末表現、引用を用いるなど、表現の工夫を考える。 4. 段落ごとに書く内容をまとめる。	・自分の考えを、段落構成を工夫して書けるように、ワークシートなどを利用して整理させる。 【書】自分の考えを、分かりやすく書くために段落構成を工夫している。
	8	調べて分ったこと、自分にできることについて文章を書き、仕上げることができる。	1. 学習課題を確認する。 段落構成や表現の工夫をして、自分ができることを文章に書きまとめよう。 2. 前時書き出したことを元に、自分なりにできることを文章に書いてまとめる。 3. 書いた文章を見直して修正する。 4. 仕上げる。	・段落のつながりの言葉、文末表現や引用の工夫など、例をあげて紹介し、参考にさせる。 【書】自分の考えを裏付けるように、引用したり根拠を挙げたりしながら文章を書いている。

第3次	9	グループ討論の進め方が分かる。	1. 学習課題を確認する。 グループ討論会の進め方を確かめよう。 2. 教科書で、グループ討論会の進め方を調べる。 3. 「話し合うために大切な言葉」を読み、自分達がどのような討論会をするとよいかイメージする。	・友達の見解と、似ているところや違っているところなどを考えた上で、自分の意見を話すことが大切であることをおさえる。 【言】適切な言葉の使い方について考え、話す時に大切な言葉を考えている。
	10	グループ討論会の準備ができる。	1. 学習課題を確認する。 発言の仕方やメモの取り方などを確かめ、討論会の準備をしよう。 2. 音声資料を聞いて、発言の仕方や話し合う時に大切なことを確かめる。 3. メモの取り方を練習する。 4. 討論会の準備をする。	・話し合うとき、話し合いを聞くときの観点などを提示し、児童がいつでもふりかえられるようにする。 ・分かりやすくグループ内の役割分担をする。 【話・聞】メモのとり方や、討論会で話す内容などを整理して、討論会に備えている。
	11	「豊かな言葉の使い手になるためには」という話題で、グループ討論会ができる。	1. 学習課題を確認する。 「豊かな言葉の使い手になるためには」という話題でグループ討論会をしよう。 2. 役割分担を確認する。 3. 討論の仕方やメモの取り方を確認する。 4. グループ討論会をする。 5. 聞いていたグループから、よかったところなどを報告する。 6. 次の討論会で気をつけることを考え合う。	・話し合う時、話し合いを聞くときの観点に基づいて、振り返ったことを明確にして討論会を行う。 【話・聞】討論の進め方にそって、発言したり意見を聞いたりしている。意見の述べ方や討論の進め方などについて、友達の討論を評価しながら聞いている。
	12	グループを組み替えてグループ討論会ができる。	1. 学習課題を確認する。 前の時間に確かめたことに気をつけて、グループ討論会をしよう。 2. 役割分担と気をつけることを確認する。 3. グループ討論会をする。 4. 聞いていたグループから、よかったところなどを報告する。 5. 次の討論会で気をつけることを考え合う。	・話し合う時、話し合いを聞くときの観点に基づいて、振り返ったことを明確にして2回目の討論会を行う。 【話・聞】討論の進め方にそって、発言したり意見を聞いたりしている。意見の述べ方や討論の進め方などについて、友達の討論を評価しながら聞いている。
	13	グループを組み替えてグループ討論会ができる。	1. 学習課題を確認する。 今まで学んだことを生かして、グループ討論会の仕上げをしよう。 2. 役割分担と気をつけることを確認する。 3. グループ討論会をする。 4. 聞いていたグループから、よかったところなどを報告する。 5. グループ討論会を終えて、学んだことや思ったことを出し合う。	・話し合う時、話し合いを聞くときの観点に基づいて、振り返ったことを明確にして最後の討論会を行う。 【話・聞】討論の進め方にそって、発言したり意見を聞いたりしている。意見の述べ方や討論の進め方などについて、友達の討論を評価しながら聞いている。
第4次	14	討論したことを振り返り、「豊かな言葉の使い手」になるためにこれからしていきたいことをまとめる。	1. 学習課題を確認する。 討論したことを振り返り、「豊かな言葉の使い手」になるために、これから自分がしていきたいことをまとめよう。 2. 討論会をしてよかったことや学んだことを出し合って考えを深め、これから自分が気をつけていくことを書く。 3. 日常生活に生かしていけるように一人ひとりの短冊に気をつけることを書く。	・今までの学習を振り返り、これからの生活の中で実際に生かす。 【書】学習氏やことを基に、自分の言葉の使い方を振り返り、考えたことを書いている。

6 本時のねらい

「豊かな言葉の使い手になるためには」という話題で、前時明確になった問題点に注意しながらグループ討論会ができる。

討論をするグループ：役割分担にしたがい、討論会の進め方にそって、根拠を明確にして意見を述べたり、自分の考えと比べて意見を聞いたりすることができる。

討論を聞くグループ：意見の述べ方や討論の進め方などについて、友達の討論を評価しながら聞き、討論が終わってから報告することができる。

7 展開（14時間中12時間目）

	学 習 活 動	指導・援助・評価	評価規準								
つかむ	1. 前時を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。 前の時間に確かめたことに気をつけて、グループ討論会をしよう。	それぞれのグループの討論の仕方や聞き方の観点を明記し、掲示しておく。									
	2. 役割分担をする。 <table><tr><td>討論をするグループ 司会 はじめに話す順番</td><td>討論を聞くグループ ○○さんの担当（内容） 司会担当（内容） 話し方・聞き方 全体の内容</td></tr></table>	討論をするグループ 司会 はじめに話す順番	討論を聞くグループ ○○さんの担当（内容） 司会担当（内容） 話し方・聞き方 全体の内容	討論をする時の評価の観点 ・意見を先に、理由を後に話す。 ・自分の考えの理由として、調べたことや経験した出来事を伝える。 ・自分の立場を明確にして話す。 ・自分の調べたこととつないで話す。 ・疑問や反論を分かりやすく伝える。 ・具体的な事柄を挙げて質問する ・はっきりと分かりやすい声で話す。 ・司会が似ているところや違っているところをはっきりさせながら進めている。							
討論をするグループ 司会 はじめに話す順番	討論を聞くグループ ○○さんの担当（内容） 司会担当（内容） 話し方・聞き方 全体の内容										
ふかめる	3. 前時の討論会で分かった「討論会で気をつけること」を確認する。 * 声が小さくて聞きにくいことがあったので、班内で聞こえるように大きな声で話す。 * 自分の調べたこととつないで話していない人がいたので、自分の意見の理由を調べたこととつなげて話す。 * 疑問や反論が少なかったので、もっと積極的に意見を出し合う。 * 何々問しているのか分からないことがあったので、具体的に分を示して質問する。 * 何々聞いているグループが、メモをしながらしっかり聞いたのでよかった。大切なことを聞き逃さないようにする。	聞く報告するときの評価の観点 ・質問した人の質問の仕方が具体的にこたえやすいかどうか。 ・反論した人が、反論する理由と、その意見についての自分の考えをしっかりとった上で反論しているかどうか。 ・司会が、同じ意見に似た意見をまとめながら討論を進めているかどうか。 ・討論会をした結果、内容が深まったり、新しい別の考えがうまれたりしたかどうか。 ・討論を聞いて、次回の討論会で気をつけることがはっきりしたかどうか。									
	4. グループ討論会をする。	討論会の仕方 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>討論をする班</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>					討論をする班				
	討論をする班										
まとめる	5. 聞いていたグループからよかったところなどを報告する。 * 前回の反省を生かして、立場をはっきりさせて発言できていた。 * 司会が似ている意見や同じ意見を整理して進めていた。 * 内容が深まり、最後により提案ができた。 6. 次の討論会で気をつけることを出し合って、はっきりさせ、学習のまとめをする。 ・討論を振り返ってまとめる。 ・気をつけることを出し合う。 * 質問や反論が少ないので、もっと進んで意見を言えるようにする。賛成の意見でも積極的に言うようにする。 * 意見の理由がはっきり言えない人がいたので、最初に発表することを自分で練習しておく。	討論をする班の周りに評価する班がある									